

国内研修レポート

私たちスタ学は、2015年8月、国内研修制度を利用して、岩手県釜石市の甲子仮設に行きました。スタ学の活動は現在、学生が記事を書いて甲子仮設住宅で配布するかまたま新聞の発行と、その仮設住宅へ実際に赴く活動の二つで成り立っています。今回はその訪問活動のため、岩手県へ行きました。甲子仮設への訪問は2回目となり、前回と同様に今回もイベントの企画・運営を行いました。前は餅つき大会でしたが、今回は夏祭りを行いました。夏祭りでは、流しそうめんやかき氷、たこ焼きなどを振る舞い、また、射的コーナーを作ったり、住民の方たちと合唱をしたりもしました。さらに、私たち学生は事前に練習していった「釜石よいさ」という踊りを披露しました。また、会場の装飾は学生が事前に作成し、持っていき、飾りつけをしました。流しそうめんやかき氷、たこ焼きなどは現地に着いてから食材の準備をし、調理をしました。流しそうめんの装置などは住民の方に用意していただきました。釜石よいさと合唱は、あらかじめ大学で集まって練習をしました。私は、合唱での伴奏を担当しました。本番で、住民の方も一緒に歌うのは初めてで、ぶっつけ本番だったためにすごく緊張しました。しかし合唱も踊りも成功し、嬉しく思います。今回の訪問では、新しい1年生が活動メンバーに加わり、人数が増えて大所帯になりました。賑やかになった反面、まとめるのが難しく、人数を生かしきれなかったことが次回の課題となりました。また、イベント自体より、イベントの準備や、イベント後の食事などで住民の方と話す機会を増やしたいと思い、積極的に話しかけていきました。

一番大きな前回との違いは住民の方々の顔と名前が一致したことです。今までは、私は仮設住宅にボランティアに行く、という心持で活動していました。しかし、今回は準備のときから、「〇〇さんは元気かな」というような、知り合いに会いに行く心持で活動していました。甲子仮設が私にとって被災地ではなく、知っている人が住んでいる特別な場所になったのだと思います。これは、東京にいては得られないものだと思います。実際に行って、その住民の方の顔と名前を覚えて、自分の顔と名前も覚えてもらって、初めてこのような変化が起こるのだと考えます。これから活動の回数を重ねていく中で、何度も訪問し、新しく入った1年生たちにも、同じ経験をしてもらえればと思います。仮設住宅の住民はこれから復興公営住宅へと移り、また新しいコミュニティを作っていくこととなります。復興公営住宅に移ってからは、私たち学生のアプローチの仕方も変わりますし、活動の形も変わると思います。しかし、そうなるからも、今回の顔と名前を覚える、覚えてもらうということで得た関係の変化の喜びを忘れずに、活動していきたいと考えています。

また、今回は甲子仮設でのボランティアのほかに、釜石市のレストランでもボランティアをしました。そのレストランでは、木材を運んだり、草むしりをしたりしました。草むしりをしながらしたスタッフの方との話で印象的だったのは、奇跡の一本松に対する考え方でした。私たちのように、被災していない人々にとっては、奇跡の木と思うかもしれない

いが、被災した人々にとっては、つらい思い出でしかないという話を聞いて、私は今までの被災地考え方を変えなければいけないと思いました。復興支援という活動が、こちら側の自己満足にしかない可能性も考えました。こう思ったことは、素直にスタッフの方に伝えました。しかし、「色んな考えがあっていいと思うよ。被災地の人にだって、一本松を希望と思っている人もいるよ。」と言われて、少し安心しました。また、レストランには、スタッフの方の一人が撮ったたくさんの写真が展示してありました。その写真は、レストランでのイベントの写真なのですが、写っている人たちが本当に笑顔で、輝いていました。その写真の数々を見て、今度は、ボランティアとしてではなく、イベントの参加者として来てみたいと思いました。

学生と住民のパイプ役となってくださっている社会福祉協議会の方のご厚意で、今回の訪問では、ボランティア以外の時間で少し釜石を楽しむ時間を取ることができました。今までは滞在時間が短かったり、活動の時間が長かったりして、ボランティアをしたらすぐ帰るといったスケジュールだったのですが、今回は夜に星を見に行ったり、最終日には川遊びをしたりすることができました。社会福祉協議会の方いわく、「被災地以外の釜石を歩いてほしい。」とのことで、このような企画をしてくださいました。私は夜に星を見に行くのも川遊びも初めてだったため、本当に楽しむことができましたし、今度は普通に遊びに来てみたいと思いました。

今回の釜石への訪問では、イベントの内容を詰め込みすぎた傾向がありました。次回からはイベントの内容を絞っていきたいと考えます。今回の訪問では、私は合唱がすごく楽しかったです。というのも、ピアノという自分の技術が生きましたし、みんなで一つのことをする楽しさを感じました。次回は、合唱をメインにしたイベントを企画したいと考えます。一緒に歌を歌ったり、練習してきた曲を発表しあったりしたいです。また、そうめんやたこ焼きの材料を切ったりしたのですが、住民の方と、料理教室をしたりしたいとも思いました。台所が少し狭いので、火を使うものは難しいと思いますが、包丁の使い方を教えてもらったり、料理のコツを教わったり、郷土料理などを教わったりするイベントをしたいと考えます。

本活動は、現代福祉学部にあるほかのサークルとは活動の形態が少し違います。そのため、この活動で得られるものも違うと思いますし、さらに多くの人に活動を知ってもらい、活動をさらに盛り上げていくとともに、震災から年数が経つにつれて、少なくなっている被災地支援を続けていきたいと考えます。もちろん支援の仕方も、ニーズも変わっていています。まだまだ支援が必要であることや、そうしたニーズの変化などを知ってもらうためにも、今回の活動、そしてこれからの活動予定などを、各ゼミを回るなどして広めていきたいです。